

備前焼製作技術

指定区分	県指定重要無形文化財
読みかた	びぜんやきせいさくぎじゅつ
所在地	その他
指定年月日	昭和55年4月8日
解説	<p>備前焼は、現在の備前市伊部(いんべ)一帯を中心に、平安時代末頃から今日に至るまで伝えられてきた伝統的な陶芸技法である。備前焼は、釉薬を用いない焼き締めによる焼成方法に特色があり、その陶土は、室町時代末期以降、この地方特有の鉄分の多い、可塑性に富む田土(たつち)が主な原料として使われるようになった。中世では壺、かめ、すり鉢などの日用雑器が主であったが、桃山時代には、茶の湯の流行の中で、花入や水指などの名品を数多く生み出し、国内でも代表的茶陶産地となった。昭和の初め頃には、桃山時代のいわゆる古備前の作調に芸術的作風が盛んになり、その後それが備前焼の主流となった。</p> <p>今日の備前焼は、土そのものの味わいと窯変による効果を生かす伝統的な技法をもとに、現代の感覚に沿った製作が活発に行われ、独特の芸術性を備えた陶芸技法として高く評価されている。</p>
アクセス方法	
公開状況	
設備	
備考	<p>【保持者】松井與之〔平成8年7月30日認定〕、山本雄一〔平成8年7月30日認定〕、森才蔵(陶岳)〔平成8年7月30日認定〕、吉本正志(正)〔平成19年3月16日認定〕、金重晃介〔平成24年3月9日認定〕、山本出〔平成24年3月9日認定〕、金重有邦〔平成31年3月8日認定〕、島村光〔平成31年3月8日認定〕、隠崎隆一〔平成31年3月8日認定〕</p>